

謹賀
新年

暮らしの瓦版

2011年1月号



地球にやさしい快適「エコ住宅」(10)

【木造で断熱性を高めると家が腐りやすくなる?】

木造の家は、木材が腐ってしまったり弱くなったりします。木材を腐らせているのは木材腐朽菌で、木材を食べるのがシロアリです。どちらも繁殖するためには「水」が必要で、その水をつくるのが「雨漏り」「水漏れ」「内部結露」です。結露には表面結露と内部結露があります。表面結露は、内装材の表面で起こります。内部結露は、壁の中、天井裏、床下などで起こります。冬の1日、暖房している室内から冷えた外に向かって水蒸気が流れます。同様に、室内の方が外より温度が高いので、熱も内から外に移動します。ところが断熱材に遮られて熱は移動しにくくなり、断熱材の外側にある外壁は冷えてしまっています。水蒸気が壁の中を移動して、この冷えた外壁にぶつかり、露点以下になると結露します。これが内部結露です。断熱性が高まるほど壁の中に大きな温度差ができて、内部結露の危険性を高めてしまいます。結露は断熱材をぬらして断熱効果を失わせ、やがて水滴となり、土台をぬらし、木材腐朽菌を繁殖させ、シロアリによる被害がはじまります。これが内部結露の最悪のシナリオです。

◆内部結露を防ぐ2つの方法…

一つは水蒸気を壁の中に入れないこと。もう一つは、壁の中に入った水蒸気を結露する前に外に逃がしてしまおうことです。まず、室内側に防湿層(ビニールシート等)を張って室内の水蒸気が壁に入らないようにします。そして、壁の中に少し入ってしまった水蒸気を結露する前に、断熱材と外壁の間に通気層をつくって、水蒸気を放出するようにします。これは「通気工法」と呼ばれるものです。もちろん板や土、レンガなど水蒸気を通す外壁なら通気層は要りません。これを透湿壁工法といいます。ここで覚えておきたいのが「水蒸気は外に向かうほど水蒸気を透過しやすいものにする」という原則です。外に向かうほど透湿しやすい構造にすることを意味します。

◆耐震補強の合板も危険が…

耐震目的に断熱材の外側に張る構造用合板。合板は水蒸気が抜けにくい材料なので、内部結露の危険性が高まります。合板を張る時は合板よりも高い透湿抵抗が必要になり、防湿層をなくすことはできません。また、水蒸気が透過しないプラスチック系断熱材を用いた外張り断熱工法は、断熱材の中の水蒸気が移動しないので、充填断熱のような対策をとらなくても内部結露は起こりません。内部結露に関してはきちんとした対策が確立しています。そのような対策ができる施工業者を選びが重要です。

季節の風物詩 「初詣」



年が明けてから、初めて神社仏閣に参拝すること。氏神様やその年の恵方に当たる方角の社寺にお参りをし、その年の無事と平安を祈ります。昔は大晦日の夜に社寺にお参りして一度家に戻り、元旦の朝に再び参詣していたが、今では大晦日の夜から出かけて、社寺の境内で元旦を迎えるという形も見られます。「恵方」とはその年の福徳を司る神「歳徳神」の所在する方角のことです。

生活 メモ 「日本の食文化・1月」



生活 メモ 「2011年・卯年」



日本には独特の食文化がありますが、特に正月がある。1月は日本らしい特徴が現れます。1月の日本の「食」をみてみましょう。

◆鏡餅…歳神への供えもの。自然の恵み、神の賜物である餅米。丸い鏡の形は丸餅(何事も丸く収まる)をさらに腰高にして力と生命力を祈願。橙は代々、譲り葉は継承、裏白は長命(枯れにくい)を意味しています。神棚には新しい神と御神酒を上げます。

◆お屠蘇…正月から三が日、1年の邪気を払い、齡(よわい)を延ばすため屠蘇散を酒・みりんに浸して飲みます。若い順に飲む(年長者が若さを保てるように)したりと家長から子どもへも渡ります。

◆祝い箸…祝いの箸は柳の両端を細くした白木の丸箸を用います。柳は邪気と不浄を祓く神木とされ、折れにくい。箸包みは奉書書を三つ折りにし、水引を金銀のあわび結びでつづいたもの。家長が大晦日に家族の名前を箸包みに書き神棚に供え、元旦の朝下ろして食膳に供します。※取り箸には福祿寿や寿などの字。

◆お節料理…来臨した歳神様に捧げるもので本来お重は五段重ね。一の重は口取り、二の重は焼き物、三の重は煮物、与(四)の重は酢の物、五段目は控え重。お節料理は基本的に縁起をかつぎ語呂合わせを楽しんだもので、決まりはありません。その家に伝わる料理、盛りつけをみんなで味わうことが大切なです。代表的な料理として縁起は次のとおり。田作り(うまめ)は鯛を干したもので、炒めてタレを絡めたもの。「稲の豊作祈願の意味」昆布巻(身欠き鯉を昆布で巻いたもの)。「よろこぶの意味」数の子(子孫繁栄の意)味(黒豆・黒豆を甘く煮たもの。「まめまめしゅくける」の意)味(きんとん・サツマイモを裏こした餡に、甘く煮た栗などをまぜたもの。「黄金・金貨へのあやかり」その他、海老は長寿、なまは根と人参の紅白縁起など。

◆雑煮…元来は歳神に供えたものを下ろし、いろいろと混ぜ合わせ、一家の主人が煮たもの。正月の四日が「棚おろしの日」とされ、この日初めて雑煮を食べる習わしもありました。関西地方の餅が丸いのはこの名残という説もあります。

◆鏡開き…武家では武具に供えた鏡餅を下げて雑煮にすることを「刃柄を祝う」、同じく女性に供えた鏡餅を雑煮にすることを「初顔(はつがん)を祝う」とい、元々20日に行われていたが11日「歳神開き」が鏡開きとなりました。鏡開きは刃物を使わないのがしきたりです。これは武家社会では切腹を連想させるからで、開いた餅はお汁粉などにして食べます。鏡餅の中に宿る歳神様の魂を分け与えてもらい一年の幸福を願うためです。

◆七種粥…7日は通俗的に正月の終わりで、七日正月の祝いとして七種粥が行われました。若菜春の七種…芹、なす、御形、はこべら、仏の座、すずな、すずしろを7日の朝に刻み、粥を炊きます。※刻み方は七種叩きといひ、七種をまな板にのせ包丁で1種を7回ずつ行います。七種粥は神前、祖霊に供え無病息災を祈り食します。この風習は元旦からの暴飲暴食による胃腸の疲れを休め、芽吹く緑の栄養と葉効を体に取り入れる先人の優れた知恵でもあります。

2011(平成23)年の干支は十二支の四番目に数えられ「卯」、さらに細かく言うと六十干支の28番目「辛卯」です。

◆「辛」…十干の8番目、「金の弟」。陰陽五行で「金」性の「陰」に当たります。金は金属や鉄。辛は、宝石や貴金属など小さくて精緻された金属を象徴するようです。「辛」の字は「新」で、草木が枯れて新たな世代が生まれるようとする状態を表しているそうです。その年のラッキー方位である「恵方」「明きの方」は、十干に基づき決まります。2011年ほか「辛」の年の恵方は丙、巳と午の間の方で、南東・やや東寄りの南になります。恵方には、その年の福徳を司る神・歳徳神が降臨し、立春から節分までの一年間、諸々のことに大吉とされる方位です。

◆卯…「卯」は、十二支の4番目。陰陽五行で「木」性に当たります。季節は春・旧暦の2月(現在の暦の3/4月頃)、時刻は現在の午前6時頃、およびその前後約2時間、方位は東が割り当てられます。「卯」は、元々は「草木が地面を覆う様子」を意味する「茂」または「冒」に由来するようです。覚え易くするために後世、動物の兎が割り当てられるようになりました。兎は「因幡の白兎」「兎と亀」「かちかち山」などの物語で、どこか狡猾に描かれていますが、日本で月の模様を兎に見立てるようになったのは、仏教説話で献身のシンボルになっているからであるのです。また、多産で繁殖しやすい、足が速くて躍動感があるため、西洋では豊穡や生命力のシンボルとされ、復活祭のイースターバニー、幸運のお守りなどになっています。卯年生まれの人の特徴は、派手で物事をスピード感覚で処理する、利己的に走るきらいあり、明るくおおらか、人情深くまめで愛嬌があり人から好かれる福運がある、温厚な性格で争いごとを嫌う、決断力に欠ける一面もある…と言われています。

2010年の干支寅は春が来て草木が生ずる状態を、2011年の卯は、その草木が地面を覆う状態を表しているようです。また卯の年は株式市場では市場回復の初期過程で「兎」が跳ねるように上昇する年という傾向があるとか。繁栄の年になればよいですね。

「正月」

正月とは本来、歳神様をお迎えし祝う行事であり、1月の別名です。現在は、1月1日～3日までを三が日、7日までを松の内(松七日)と呼び、この期間を「正月」といい、また1月20日までを正月とする地方もあります(二十日正月)。歳神とは1年の初めにやってきて、その年の豊穡と家族の無病息災を見守る神様です。私たちの祖先は「全てのモノには命がある」という[アニミズム]を信仰しており、作物と人間の生命は1つのものであると考えていました。そのため、人間が死ぬとその魂はこの世とは別の世界に行き[祖霊]いわゆる[ご先祖様]になると信じられており、祖霊が春になると[田の神]に、秋が終わると山へ帰って[山の神]に、そして正月には[歳神]になって子孫の繁栄を見守ってくれているのだと言います。

修繕 リフォームから新築工事の建物の事
優良土地活用から物件探索の土地の事
北 本 建 設 株 式 会 社
埼玉県北本市古市場 3-131 TEL : 048-591-1234
URL : <http://kitaken1970.com> FAX : 048-591-0019



1月 暮らしのカレンダー	
睦月、祝月、嘉月、農楽月、端月、初月、建寅月、元月、泰月、太郎月、早縁月、年初月	
1日 元日	10日 成人の日
2日 初夢／書初め	11日 鏡開き
6日 小寒	15日 小正月
7日 七草粥／人日	20日 大寒／二十日正月

